

□大会第13日目 7月24日(木)

(球) 山館 浩樹 (一) 佐藤 圭 (二) 水戸 恭平 (三) 新野 祥平
 【一】 藤田, 早坂, 櫻井, 及川 一 金子
 【育】 梶井, 刀祢, 吉川 一 川尻
 ▽暴投 刀祢2 (育) ▽捕逸 なし
 ▽本塁打 土屋, 田山 (育)
 ▽三塁打 なし
 ▽二塁打 なし (一)
 有本, 和賀 (育)

投手名	打数	投球数	四球数	四死球数	被安打	本塁打	犠打	犠飛	三振	四球	死球	暴投	ボーク	失点	自責点
藤田 拓実	18	78	4	0	4	1	0	0	1	2	1	0	0	4	2
早坂 謙伸	3	8	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
櫻井 太智	7	18	1	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	4	4
皮川 啓史郎	2	8	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

【評】 仙台育英学園、2本塁打を含む9安打8得点の7回コールド勝ちで4年連続の決勝進出。

仙台育英は、初回仙台一高先発の藤田から四番土屋が右越え2点本塁打でまず先制。6回にも、3番手桜井から一番田山の右越え本塁打で3点を追加し、試合の流れを完全につかんだ。さらに、6点リードの7回には変わったばかりの4番手及川を攻め、七番有本が右越え安打を放ち、試合を決めた。仙台一高も、前半は育英を上回る安打を放ち好機を作るものの、育英の繰り出す3投手の前に散発7安打の1点のみで抑えられ悲願の決勝を前にして、悔しい敗戦となった。

東 陵 0 0 0 1 1 0 0 0 0 ([左] 山下大輔 [右] 西山充) 2 【東】 32 7 2 1 2 3 7 8 4 0
 (球) 三浦 徹 (一) 野田 学 (二) 佐々木 諒太 (三) 曾根 徳明 ▽本塁打 なし
 【学】 伊藤 佐々木 健 一 佐々木 大 ▽三塁打 なし
 【東】 幸 赤間 二 地紙 ▽二塁打 阿部 (学)
 ▽暴投 佐々木 健1 (東) ▽捕逸 なし (東)

[illegible]

第3シード東陵とノーシードの東北学院榴ケ岡の準決勝は、終盤に劇的な展開が待ち受けていた。先制したのは東陵、4回先頭の四番三浦が内野安打で出塁すると、犠打と投手暴投で三塁まで進み、七番小山の左前適時打で1点を先取した。続く5回は2死2塁の場面から三番赤間の右前適時打で2点目を挙げ、試合の主導権を握るかに見えた。対する学院榴ケ岡は6回、一番阿部、二番鈴木との連打でチャンスを作ると、三番後藤のセーフティスクイズ、五番武田の犠飛で同点とし、接戦のまま試合は終盤へ。迎えた9回表、学院榴ケ岡は1死後六番佐々木大が敵失で出塁すると、続く七番鈴鶴の打球が併殺を狙った東陵守備陣のミスを誘い、1死1・3塁へとチャンスが拡大した。2死となった後、九番七森の打球が相手の悪送球となり3塁走者が生還、学院榴ケ岡が逆転した。9回裏の東陵打線は、3回から登板した学院榴ケ岡主戦の佐々木健を打ち崩すことができず無得点に終わった。1点を争う攻防は、ノーシードから勝ち上がってきた勢いそのままに東北学院榴ケ岡が勝利した。